

〔和漢三才圖會三十一〕庖厨具 椀〇中 行厨 俗云辨當〇中

行厨辨當云即椀子之屬、飯羹酒肴椀盤等兼備、以為郊外饗應、配當人數、能辨其事、故名辨當乎、

提爐 携爐 俗云茶辨當

按提爐、今之茶辨當也、入茶爐於椀、行厨與此、令僕擔之、行旅重器也、今製數多、

〔中山傳信錄六〕椀

士夫家有一椀、或朱或黑、滲金間采、製作甚精、郊飲各攜一具、中四器置食物、旁置酒壺一盞、一筋二、諸具略備、民家食椀、或方或圓、皆作三四層、刳木為之、

爐

水火爐、製用輕簡銅面錫裏、一置火、一置水、外作一小木架盛之、下二層黑漆、蓋三四事、中藏茗具、入

茶擔中、國王令秀才二人值之、客出遊則携以隨、

〔老人雜話上〕信長の時分は、辨當と云物なし、安土に出來し辨當と云物あり、小芋程の内に諸道具

をさまると云、僞ならんとて、信せぬ者ありしとぞ、

〔宗長息女婚禮記錄〕道具與以下次第之事〇中

四拾四辨當

〔續近世畸人傳四〕雇人要助

花顛因にいふ〇中 予が去たしき人、銅にて作りし三ッ套の鍋、木椀、磁器、酒器、箸などを片荷とし、

味噌、鹽、醬油、米、酒などを又片荷に去たるものを作り、檐厨と名づけて、春秋山野遊行に携へ興せ

しが、此大火〇天明八年に、東山に遁れてあるとき、きて行訪ひしが、此たびは此檐厨にて、十七人心よ

く凌たりと話せり、

〔雅遊漫錄三〕行厨